

## アキュラホームの社会貢献活動『木望<sup>きぼう</sup>の未来プロジェクト』をスタート 間伐材を採用した小学校学習用机の天板 565 枚を小学校に寄贈

株式会社アキュラホーム（本社：東京都新宿区 社長：宮沢俊哉）は、2010年度より社会貢献活動の一環として、木の素晴らしさを子どもたちに伝えるため「木望の未来プロジェクト」と題し、地域の小学校に対して、間伐材を採用した小学校学習用机の天板 565 枚を寄贈する活動と、木の良さを伝える「カンナ社長のふれあい授業」を実施しました。 ※ 間伐材とは、森林の木が成長するため間引き（木々の間隔を広くするため一部の木を伐採）された木材

### ■ 「木望（きぼう）の未来プロジェクト」活動の背景

2011年は、国連（国際連合）が定めた「国際森林年」です。日本国内でも「森を歩く」をテーマとし、森林の大切さについて理解を深めたり、森林を守り育てる活動への参加を強く呼びかけています。当社は、木の家を提供する企業として、「木の素晴らしさ」「物の大切さ」「物づくりの楽しさ」を、次代を担う子どもたちに伝えていきたいと考え、「木望の未来プロジェクト」を2010年4月より立ち上げ活動しています。

※「木」と「希望」を組み合わせ「木望（きぼう）の未来プロジェクト」と名づけました

活動内容は、地域の間伐材を加工し製作した小学校学習用机の天板（以下 天板）を小学校に寄贈し、古い机を再生するほか、社長の宮沢俊哉が木の良さを伝える講演とカンナがけ実演を行う「カンナ社長のふれあい授業」を行いました。

この活動は、毎年一学年を対象として、6年間で全学年の天板交換と「ふれあい授業」を実施する計画としています。

※小学校によっては内容を一部変更する場合があります



### ■ 天板に“間伐材”を採用する理由

間伐材は、主伐材よりも直径が細く用途が限られることや安価な輸入木材に押され、現在は需要が低迷しています。そのため間伐自体があまり行われなくなり、森林の荒廃など環境に影響を与えています。

当社では、この間伐材を積極的に採用することによって、環境保全や地球温暖化防止の一助となればと考えています。また、この活動を通して間伐材利用の啓発を行っていきます。

～ 埼玉の木づかいCO2貯蔵量認定制度の認証を取得 ～

埼玉県では木材利用の意義や森林への関心を高めてもらい、県産木材利用の促進を目的とし、県産木材を使用した木造住宅の建築や内装木質化を行う施主及び事業者、または木製品の製造者に対して、県産木材利用による環境貢献度を適正に評価する「木づかいCO2貯蔵量認定制度」を創設しています。当社は、今後5年間の「木望の未来プロジェクト」により達成されるCO2貯蔵量5.532tに対して認証を受けました。

### ■ 天板交換実施校（枚数）

埼玉県熊谷市立I小学校（144枚）、東京都多摩市立西愛宕小学校（174枚）、東京都武蔵野市立D小学校（102枚）、埼玉県内の小学校（145枚）、合計565枚

当社は創業より32年が経ち、新たな企業活動として、当社らしいかたちで地域に恩返しすると共に、豊かな社会形成に貢献したいと考えこの活動をスタートしました。今年度から全国の15支店を通じて継続的に実施する予定にしており、将来は、当社が主宰する全国の工務店ネットワーク「JAHBnet（ジャープネット）」へその輪を広げていきたいと考えています。

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越・若林 Email: horikosi@aqura.co.jp

住所：東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F TEL:03-6302-5010（直通） FAX:03-5909-5560

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>

## ■ 間伐材を採用した天板を交換した机「木ごころ机」



再生された机で気持ちのよい授業環境を整えるだけでなく、子どもたちには生活の様々な場面で“木を大切にする気心”を伝えたいという思いから、間伐材を採用した天板を交換した机を「木ごころ机」と名づけました。

## ■ 『カンナ社長』の由来

社長の宮沢俊哉は、三代続く大工の家系です。中学卒業後埼玉県で大工の道を歩み、1978年19歳で独立しました。当時から住宅業界の古い体質や慣習、無駄なコストに疑問を抱き、創業後はこれらの無駄を削り取った“適正価格”の住まいづくりを追求し続けています。宮沢は入社式でも新入社員を前にカンナがけを行い、記念すべき社会人スタートの日に、「匠（たくみ）の心」、妥協することなく住まう人のために精進し、努力を惜しまない心を持ち続けてほしいと伝えています。このカンナがけをする度、社長の宮沢は初心に立ち返り、“日本の家づくりを変える”決意を新たにしています。